

from

いわて ファンド

株式会社 ホップス

消費者の視点で厳選した 「オンライン小売店」

インターネットの普及により、今やネット上での買い物は一般的なこととなった。ショッピングモールはもちろん、自社サイトにショッピングページを設けるメーカーも少なくない。しかし商品情報があふれかえる一方で、地方には知られていない「逸品」も多い。

株式会社ホップスが運営する「まがりや.net」では、そうした隠れた商品を紹介し販売する、地方発のオンラインショッピングサイトとして注目を集めている。

東北のもの・人・風景を紹介

盛岡市に本社を置く同社は、Webに関する企画提案、コンサルティングから開発、デザイン、運営まで行っている。設立当初はDTP関係とプログラム開発を主な業務としていたが、将来性のあるWebのコンテンツ作成業務にも力が入れるようになった。次第にWeb関係の仕事の比重が増し、現在では業務の柱となっている。

「まがりや.net」は、東北のもの、人、風景を紹介するショッピングサイト。ホップスのスタッフが自ら東北各地取材して歩き、消費者の視点から見て納得できるものを選定し、サイトに掲載している。「まがりや.net」誕生のきっかけについて代表取締役の工藤昌代さんは、「いろいろなホームページを作らせていただきましたが、自分たちが作りたいものを勝手に作れるわけではありません。新しいことを試してみようと思っても、予算的な制約もあります。私たち自身、何かを発信していきたいと考えているところもあり、地元中心の材料でPR

できるものを作ることになりました。自分たちのノウハウを活かして思い通りに作ることで、当社はどんな



「仕事を通して地域に貢献したい」と話す
代表取締役の工藤昌代さん。

ことができるのかを示し、サイト自体が販売促進ツールとなるものにしようというねらいもありました」と振り返る。

生産者のこだわりも発信

「まがりや.net」に掲載する商品は、生産者との緊密なコミュニケーションの中で絞られていく。たとえば大間漁港協同組合の商品は、マグロだけではない。「大間だからといって、マグロだけでやろうとしては地元の理解も協力も得られません。『私たちも普通にマグロを食べたい』という感覚で大間の方たちと話し合いますが、彼らとのコミュニケーションという面から考えると、マグロ以外のものも発信していきたいと思うのです」と工藤さん。それが、商品を提供してくれる人々に対する誠意でもあるという。

地道な取材とコミュニケーションを経て、本当に良いものだと納得できた商品だけを扱う。コミュニケーションを深めるからこそ、生産者や企業のこだわりを伝えることができる。生産者や企業同士をマッチングさせ、コラボレーションによる商品開発など新しい展開を模索することも考えている。「それが生産者や企業にプラスになり、消費者にも喜ばれ、私たちもいくばくかの利益を得ることができれば。そうやって皆がハッピーになれるものをつくりたいのです」

それはホップスという企業の経営理念にも通じる。「会社をやっていくなら社会貢献が必要だと言われたことがありますが、その頃は必死になって会社としてのステップを踏んでいこうとしていた時期。社会貢献など手が出せないものだと思っていました」と工藤さん。しかし多くの人と会い、仕事をしていく中で、考えが変わった。「お金を用意するのではなく、自分たちができることで地域に何かを還元すればいい。私たちが『まがりや.net』を通じて、生産者、消費者の方々にプラスになること、喜んでもらえることを提供できるなら、それが私たちの社会貢献だと思いました」。企業として利益を出すことは当然だが、利益の追求だけでは終わらない。今は、そこに「まがりや.net」、そして会社の存在意義があるのだと考えている。

◀商品は必ず自分たちの目で確かめる。
取材当日、事務所に出るサンプルが届いた。



▲消費者の視点を大事にする「まがりや.net」。
スタッフの感性が活かされている。



まがりや.netQRコード

広告媒体としての「まがりや」

その「まがりや.net」が、1月に行われた「いわてビジネスグランプリ発表会」(いわて起業家サポーターネットワーク主催)でイノベーション部門グランプリを受賞した。審査員からは、IT時代にふさわしいビジネスモデルで、潜在的な成長力を秘めていると評価された。そして受賞は、この事業を新しい展開へと導きつつある。「受賞によって注目度が高まり、いろいろなどころから問い合わせがきます。当社だけでなく、『まがりや.net』に出店している人たちの注目度も上がりました。広告媒体として動いてきていることを実感しています」

設立から10年という節目で、今後はずみとなる賞を受けたホップスだが、組織としてはまだ態勢づくりの過程にあるという。有限会社としてスタートし、一昨年1月に株式会社になりました。工藤さん一人で始めた会社が、今では仙台と東京にもオフィスをもつようになった。平成17年には経営革新



▲いわてビジネスグランプリ発表会で
グランプリを受賞。
潜在的な成長力が評価された。

企業として認定され、いわてインキュベーションファンドからの投資も受けた。「会社として必要に応じてやってきましたが、まだ模索の段階。これから先、どのように展開するのが適切かを見極め、判断していかねばなりません」と工藤さんは今後を見据える。

「まがりや」は可能性の源

将来を考える上で、やはり「まがりや.net」は重要なポジションを占める。企業として、基盤となる売り上げを確保できるようなサイトに育てたいと考えている。また物販だけでなく、システムの転売も視野に入れている。出店する企業と、その企業の商品がほしいという企業とのコーディネート的な業務、商社的な業務が増えてくる可能性もあるが、さまざまな可能性に対応していくつもりだ。

それでも、基本姿勢は変わらない。「大手ネットショッピング企業と違って、私たちはものが動いて初めてお金になる小売店のようなもの。あくまで消費者の立場から自分たちが購入したい、食べたいというものだけを選んで、生産する人のこだわりをきちんと取材し、納得して掲載していきたい」と工藤さんは話す。現在は食品が主力だが、ものづくりの人たちにも注目し、その思いや表現したいことを伝えていくのだという。今後どんな商品を探し出してくるのか。「まがりや.net」から、しばらく目が離せそうにない。

企業概要

設立	平成8年11月
代表者	代表取締役 工藤昌代
所在地	岩手県盛岡市上太田蔵戸 32-5 盛菱ビル 2F
電話番号	019-656-3561
資本金	23,000千円
従業員数	14名
業務内容	Webビジネスソリューションの推進、 Webを利用した業務用アプリケーションの開発、 東北ショッピングサイト「まがりや.net」の運営

ファンドの視点

まがりや.netを運営する(株)ホップスは、実は他のオンラインモール運営会社やオンラインショッピングサイト運営会社とはかなり違います。多くのオンラインモール会社はシステム会社の視点で商品販売しており、多くのオンラインショッピングサイト運営会

社は、生産者自身の視点で商品販売しています。それに対しホップスは、東北の素晴らしい品々を世に広めたいという思いの下、消費者の視点で商品販売しています。そういった違いが、商品紹介ページにも現れています。まがりや.netをご覧頂ければ分かりますが商品だけではなく、それを作っている生産者の紹介にも力を割いています。こういった姿勢は消費者のニーズにも沿っ

たものといえるでしょう。

電子商取引の市場規模は現状でも大変大きく、そして急成長中で、まだ圧倒的な勝者が存在しません。その中でまがりや.netが、キラリと輝く存在になることを期待して、いわてファンドからも引き続きご支援をさせていただきます。

いわてインキュベーションファンド業務執行組合員
フューチャーベンチャーキャピタル(株) 岩手事務所
石井 優